

www.poppiano.org

旅は人 旅は人生

長く短い祭

椎名林檎

Arranged By Fuji Kaze
Transcribed By Hitode

2
7
14
21

Transcribed By Hitode

久良岐乳児院

長谷川 正弘

旅の中で出会った楽曲たち

音楽を流しながら何かをするのは嫌いではないのです。特に音楽を聴きながら眠りに落ちる感じが好きですが、それって聴いてないのでは…の声はごもってもですが、ちょっと違うと思っています…。しかし最近、音楽を聴くと云うより前に寝てしまっていることが多い様です。その他、例えば以前していた正月の年賀状の版画などは、下絵書きから彫り^{ほり}そして200枚近くの刷り上がり^{すり}迄ずっと音楽(CD・MD)流しっ放しで早朝から徹夜で翌日の夜半過ぎ迄約丸二日掛かりで集中して遣っていました。版画と云う事より、寧ろ^{むしろ}貴重な公休日ですから、余裕なく日頃聴けないでいる楽曲をこの時とばかりに聴けるチャンスでもあったからです。但し一方、普通と^{たがえる}違えるかも知れない部分としては、車の運転中に音楽或いはテレビは元よりラジオ放送は滅多

に聴かない様になっています。何故ならエンジン音や走行音を耳にして注意を払って運転しているからで、通常の正常音を知っていれば、小さな異音にも気付けるし、そうすることで大きな故障や事故には繋がらないと思っているからです。ですから、喋りながらの運転もあまりしないので、話の相手をするのも運転中は特に好きではないのです、タクシー・ドライバーではないので…。逆に心地よく快調なエンジン音は、そのものがBGMになります。一方で最近の車、特にハイブリッド車は無駄な音がしません。昔は、車購入すると、しばらくの間こまめにオイル交換して、エンジン内のスラッジを洗い流さないと、静かなエンジン音が得られないとの事で、比較的安めのオイルで、毎日通勤で使っていましたので、1カ月に一度ぐらいはオイルとオイルエレメント交換をフラッシングしつつ、より静かなエンジン音を求めて約一年半は続けて遣って、締め一年交換に切り替える時は高級オイルを買って来たものです。それ以降のオイル交換も、つい最近まで自分で

遣っていました。オイル・ドレーンのコックはオイル漏れしない様、走れば走るほど締まると云うものなので、コックを開けるのに毎回苦勞しました…。

それは兎も角、何故か音楽と私、と云うと何だか無縁の様なイメージをお感じの方も多くおいでとは思いますが、生まれてこの方何と多^{かた}くのジャンルの音楽に興味を持って来たことであろうと思います。最初買ったレコードは何だったのだろうか？と考えてみれば、今やレコードと云うか LP・EP・SP なるものが主流でなくなって(確かに、以前の実家の物置改修の際、CD に買い替えたり MD に移したりして、LP を全廃したことありました)、カセットの時代も終わって、CD の時代でもなくなり、MD や SD カードでしたか？…の時代も…、最早それも遅れているらしく更に次の時代の様で…私は MD の時代が最期でした。以前にも書きましたが、既に 70 数年も生きてきて記録すべき人生でもなく、記録など存在も無く、思い出せないことが多くな

っていますし、時をワープしている部分も色々な面であるのです。久々に覗いてみたらあまりの代わり様にびっくりすると云う様な浦島太郎の様な場面はよくあり、付いていけそうも無く諦める…、其れは老化故ではなく、タイム・スリップしたかのような別物感があるから、…若しかすると其れが老化なのかも知れないが…。しかし、久良岐乳児院の各記録の ICT 化、付いて行けなければ辞めるしかないと思っていたが、開けて記録を見るぐらいは出来ていて、幸いなことに？(残念ながらかも…)辞めずに済んでいます。

さて音楽は、フツと聞き直してみたくなるものであり、情景と共に想い浮かぶものでもあります…。一方情景を見て音楽を想い出す事は少ないのでは…。と云うのは情景は時とともに変わっていくからでしょう。音楽は変わらない、変わらないからその時や情景も想い出せるのです。時代とともに変わるのが情景であり、更に環境も変わるので、変わらないはずの音楽が古びて見えることもあり、

『懐かしのメロディー』的扱いをされてしまう…。しかし、夫々かたがたの方々の思い出の中に大切いっで何時いつまでも色褪いろあせせる事のない音楽がある様に思うのですが…如何いかがでしょうか。

さて、小学校の頃は慶応大学出身のダーク・ダックスが好きでした。例の担任の先生と歌った歌がよく歌われていたからでもあり、叔父が慶応に在学して居た事もあります。ボニージャックスと云う同系の早稲田大学出身のグループもありましたが、私は慶応系のダーク・ダックスの方が何故か好きで、特にベース(=バス)の「ゾウさんとおやまはじめ(遠山一さん：未だご存命のよう)」が好きでした。

以前は何てらいの銜てらいも無くよく歌っていましたが、意外と歌うのが好きだったのかも知れないと今、想います。賛美歌・ロシア民謡や労働歌・「灯ともしび(所謂歌声喫茶)」系の歌・「歌と踊りの民青みんせい(民主青年同盟)」系の歌等々。具体的には『仕事の歌』『神ともに居まして』『灯』『トロイカ』『一週間』『ヴォルガの舟歌』『アムール川のさざなみ小波』等々が思い

出されます。^{わたくし}私今は全く歌わなくなりましたが、よく大きな声で歌を歌っていた時期が2期間ほどあり、一つ目は上記小学校3年から卒業までの期間です。そして、もう一つは以前書きましたが、^{たんどくこう}単独行の時期でなく、大学から前職の途中までの「歩く会」や「山岳部」と歌う仲間は変わりましたし場所も山に限ってと変わりましたが、千枚小屋の幕営地で怒られるまでは、山に入って大いに山の唄歌っていた時期があったのです…。『シーハイルの歌(五所川原農学校スキー部の歌)』『岳人の歌(アルプスの恋歌)』『いつかある日』『山の娘ロザリア』『エーデルワイズ(法政大学山岳部歌：映画のあれでは無く…)』『山の友に寄せて(成蹊旧制高校虹芝寮寮歌)』『谷川小唄(所謂ズンドコ節替え歌)』『夏の思い出』『山賊の歌』『一日の終わり』『いつか或る日』『山の大尉』『新人哀歌』『穂高よさらば』…等々。最近は歌っていない所^{せ い}為もあり、老化も手伝って声も出ませんし、歌う事に自信がない気がしているので、カラオケなど以ての外なのですが…。

其れに、だいたい中学生になると、週二駒分の『音楽』という授業があって期末には歌唱の試験があり更に、音楽的常識(楽譜・記号・歴史・聴音 etc)の試験もあり、音大出の神経質な先輩でもあるおばちゃん先生のキイキイした感じが嫌で、意図的に悪い生徒で成績も思い切り悪く所謂教科としての音楽は嫌いになりました。

そして次の時代は聴き見る時代に入り、小学校6年生後半から中一前半、日劇のウェスタンカーニバルの時代。最初はウェスタンが主流であったが、ウェスタンカーニバル自体が次第にロカビリーに転向して行きました。既にカラー・テレビジョンの時代でありましたが、ライブと云うより録画編集放映の時代でありました。私が先に感じたのは、ロカビリーの方でウェスタンは後から映画やフォークソングと共についてきました。ロカビリーと呼ばれた時代ではあるけれど、日本のロカビリーから入ったという感じで、パフォーマンス的にはアメリカン・ロカビリーのまだまだ真似っぽかった時代です。但し、平尾昌晃/ミッキー・

カーチス/山下敬二郎を始めとして、飯田久彦/坂本九/鈴木やすし/鹿内タカシ/佐川ミツオ/藤木孝等々、後のJ-pops 又はニューミュージックの先駆けとなった人々が名を連ねていました。但し、飯田久彦以降はロカビリーと云うより、更に後には海外の流行 pops を和意識・編曲したものを歌ってヒットした。そして、アメリカの流れそのものも、後にロカビリーは初期型のロックンロールと言われ、ロックンロールの古典とも云われる様になっていきました。ウェスタンからロカビリーと云うか、ブルークラスとロックンロールとのブレンドとも言われていました。代表的ミュージシャンはやはりエルヴィス・プレスリーではないでしょうか、しかし一方、因みにジョン・レノンは「ロックンロールに別名を与えるとすれば『チャック・ベリー』だ」と言ったそうですが、私は其のチャック・ベリーもエルヴィス・プレスリーもロカビリーから入った、ロックンローラーだと思っているのです。私としてはチャック・ベリーを先に覚え、エルヴィス・プレスリーのLPを

手に入れたのは、映画「ブルー・ハワイ」を見てからのサウンドトラック盤で、やや流行には乗り遅れていたと思われがちですが、実を言うと以前にもSLブームについて書いた様に流行りを外す傾向はあったからです…。

そしてあの頃、友人Kと共に隔週日曜日位の頻度で映画かライブを見にいました。何のライブかと云うと“*The Ventures*”、ファンクラブにも入っていて新譜レコードが割引で買えたりしていました。因みにファンクラブ割引で第一回公演の初日の切符を手に入れた時のワクワクを今、思い出しました。よく新宿の厚生年金会館ホールに行きました。一番前のエキストラの席に座ったことも何度かあり、その割に乗りの悪い奴らだったかも知れない、何せお行儀の良い日本人でしたから…。

映画は従兄弟でやや年上のSさんと西部劇ブームの中、小学校後半から中学校1年生位迄は一緒に見に行っていたが、中学校半ばから高校半ばまでは其の友人Kとロードショー劇場によく見に行っていました。Kは早稲田の理学部

数学科を出、その後母校の数学教師となり、後には其処の校長もやった事のある、私とは違う堅物の勉強家？でありました。さて、70 mm / シネマスコープ / シネラマと映画の立体大画面化が流行しました。70 mm映画を最初に見たのはジョン・ウェイン/リチャード・ウィドマーク/ローレンス・ハーヴェイの『アラモ』、時々未だに見ていますが、最新のデニス・クエイド/ビリー・ボブ・ソートン/ジェイソン・パトリック/ジョルディ・モリャの『アラモ』もあり、こちらはもう少し暗くシリアスに、しかし「アラモ砦」の犠牲が無駄ではなく『アラモ』砦の攻防で足止めを喰らったサンタアナ将軍は、最終的にはその間に立て直したサミュエル・ヒューストン将軍率いるテキサス軍に敗北し、サンタアナ将軍が処刑されるころまでナレーション中心に締めくくっていて悲壮感のみでない処に救われ感があり、見比べています。しかし、実はジョン・ウェインも『アラモ』の次に『サム・ヒューストン物語』を創る予定だったのですが、『アラモ』にお金を掛け過ぎ計画

倒れしていたのです。

最近映画館に行ってビックリするのは、上から下まで映画館で(当たり前?)、各階毎幾つかのホールがあり、一つ一つが小さくて、ビデオを見ている感じである事、プロジェクターを使っているのかなって感じでフィルムがあるのだろうかとの疑問になる、デジタル化とはどういう事なのか…。この辺りも記憶がワープしている処、ロードショー映画でありながら、この様な映画館で見えるのです、しかも上映中飲食禁止です。しかし一方コロナ禍より遥か以前から映画館へは行かず家でLDからDVDやBDソフトを借りたり買ったりして見るようになっていたから…。映画館と云うものの進化を知らずにいた。逆に言えば、映画館に行かなくても家でも映画がみられる時代と言っても良いのかも知れないです。またテレビでも映画のチャンネルがあったりしています。特に、洋物は著作権が効いている期間も短く、見損なった映画も直ぐにレンタルで見られる時代になっています。

其れは兎も角、映画音楽にも興味をもちました。従って、西部劇映画音楽がカントリー・アンド・ウエスタンだと思っていた状態からカントリー・アンド・ウエスタンに入った気がするのですが、更に何方かさらにどちらと云うとフォークからハंकウィリアムスやハंकスノウ/ジョニー・キャッシュ/バック・オーウェンスのカントリー・アンド・ウエスタンへ戻った感じの流れが私にはあるのです。

さて映画音楽の方はミッチミラー合唱団の『史上最大の作戦』、『大脱走』/『スターウォーズ』シリーズのジョン・ウィリアムスの音楽/因みにジョン・ウィリアムスと言えば『シンドラーのリスト』『未知との遭遇』『スーパーマン』『E.T.』『インディ・ジョーンズ』『ジョーズ』『ジュラシック・パーク』『ホーム・アローン』『ハリー・ポッター』などのヒット映画の音楽を手掛けており、効果音や擬音・電子音・シンセサイザー・加工音(例えばゴジラの咆哮)等を使わず映画音楽についてはフルオーケストラにより多彩な音で宇宙や壮大な世界を表現した、巨

匠であります。映画音楽と云うかミュージカル映画は『ウェストサイドストーリー』『サウンドオブミュージック』『メリーポピンズ』『キャメロット』『マイフェアレディー』などとディズニーのアニメミュージカルとその実写版等々は繰り返し見えています。その他のスペクタクル映画としては、『アラビアのロレンス』『クレオパトラ』『十戒』『キング・オブ・キングス』『アルマゲドン』『2001年宇宙の旅』『ベンハー』『風と共に去りぬ』『グラディエーター』『ハリーポッター』シリーズ『ロード・オブ・ザ・リング』シリーズ『宇宙戦争』『レッド・クリフ』『タイタンの戦い』『ロビン・フッド』（ラッセル・クロウ主演/ケビンコスナー主演）『タイタンの逆襲』『インモータルズ』『インデペンデンスデイ1・2』『ゴッドファーザー』シリーズやそして各種の『三銃士』各種の『アーサー王物語』（前述の『キャメロット』を含む）『007』の全作品トム・クルーズ主演の映画版と初期TV版の『ミッションインポッシブル』のシリーズ等々を見、そして其処

にはスペクタクルにふさわしい音楽が付されていて、サウンドトラック盤と云うLPがあり臨場感一杯で各シーンを思い出しつつ聴いたものもありました、が今や映像其のものを前述の通り家で見る事が出来る時代になり音もかなり良いのです…。その他シェークスピア作品の映画化された物の数々、シェークスピア劇には音楽が無い訳ではないが、その作品の場面場面を引き立てる所謂映画音楽様いわゆるのものは無かったので、映画でも作品を忠実に再現すると、映画音楽は無い事になりますが、表現の仕様は戦争場面などもある訳でスペクタクルにもなっていました。アル・パチーノ作品の『リチャードを探して』はシェークスピア作品の『リチャードⅢ』を映像化していくドキュメンタリー・ドラマであり、中での各俳優は個人としてのリチャードⅢへのイメージや想いを語り、その夫々の想いを以ってリチャードⅢ像と云うかイメージを作り上げていく過程のディスカッションの様子を交え、更に『リチャードⅢ』も完成していく、面白いタイプの作品でありアル・パチーノの最

初の監督作品でもあり、監督は違うが次のアル・パチーノ主演の『ベニスの商人』に繋がっていく。しかしこの後者作品では、『ダイ・ハード』のジェレミー・アイアズの助演ではありましたが演技が良かった、あのしゃがれ声が効いた…と思っています。他ケネス・ブラナーも監督として元奥さん(エマ・トンプソン)を使ったりしてシェークスピア作品を映画化しているが此方は思想・哲学的と云うよりスペクタクル化娯楽化している感じだが、ケネス・ブラナーの主演・監督作品『ハムレット』はまあ良かったと思えました。黒澤明監督作品にも『蜘蛛の巣城(マクベス)』『乱(リア王)』等があります。今思い当りましたが、矢張りシェークスピア作品そのものが意外とスペクタクルなのだ…。

映画の話になるとまたまた止まらないので、話を音楽に戻し、目を閉じて思い出そうとしましたが…、無理なように検索しました。話を「オールナイトニッポン」から始めようと思って確認してみましたら、1967年10月2日から

始まったと有り、なんか違うと思ひ次に想い当たったフレーズが「深夜放送」と云う言葉。その言葉で確認してみると、日本における深夜放送は、民間放送の開局と同時に始まったとありました。1952年4月1日にラジオ東京（TBSラジオの前身）が占領軍の軍人とその家族をターゲットとして放送を開始した『イングリッシュ・アワー』がその嚆矢とされています。同月6日には文化放送が深夜1時から日本語アナウンスでの紹介による洋楽番組『S盤アワー』を開始しています。1959年10月10日より、ニッポン放送では子会社「株式会社深夜放送」（フジサンケイエージェンシーの前身）が深夜から早朝の従来放送休止中に空いていた枠を利用して、のちの『オールナイトニッポン』の前身となるディスクジョッキー（DJ）による音楽番組『オールナイト・ジョッキー』の放送を開始しました。日本の放送史上初の24時間放送の実現でもありました。その後、ラジオ関東（アール・エフ・ラジオ日本の前身：今、ラジオ関東（ラジ関）ってない事を知らなかった私でして、此処もワー

プしてました…。)も深夜放送に参入しました。尚、この当時、終夜放送を行っていたのはニッポン放送(株式会社深夜放送)のみで、それ以外のいずれの局も、遅くとも3時頃には放送を一旦終了していました。また、これらの番組は「大人」が対象であり、のちの若者を主要対象とする時代と編成方針が大きく異なっていたようです。

中学2年の頃には各中間試験・学期末試験の際には深夜放送を聴きながら徹夜とまでは行かないが放送終了までは試験勉強するようになった記憶があるが、この習慣は試験時に限らず大学卒業まで続きました。勉強していたのか半分以上ラジオに神経が行っていたかはお想像にお任せいたします。そして、この間に多くの音楽を聴く事になります。

高校時代の文化祭ともなると、既に幾つものバンドが存在し、ホールなどを使って演奏が各グループ交代で行われるようになり、プログラム作りが煩雑になり、プログラムに入りきれないグループには空き教室(当日は全てが空き

教室でした)を提供しました。因みに私、蹊^{こみち}祭実行委員会のメンバーでしたが、会議には出るものの、新しく設けられた学園祭全体の「装飾」と云う分野を担当し、2年間その時期はペンキ屋さんのような恰好をして大工をしたり、高い所に上ったりしていましたし、何と授業にも制服免除でその格好で出ていました。従って1964 東京オリンピック等、入場券があっても私は行きませんでした。高校位になると学園祭も遊びではなくなっていたと思います。しかし、その頃の話はまたいつか…。それはさて置き音楽、外国人アーティストの真似ではなく、オリジナルの日本製と云うか日本人の作詞家・作曲家が力をつけ、また学生製の作詞作曲も行われ始め、和なフォークと云うかカレッジフォークソングと云われる物も出てくるに至るのです。その一方ニューミュージックと呼ばれる音楽が『ザ ヒットパレード』等で流されました。実は私の友人の数人も『小さな日記』で少し売れたことがあって、テレビにも出演していました。もともと、この「フォーセインツ」と云うグループはアッ

ブテンポで乗りやすいフォークであったキングストン・トリオ風のバンジョーの入ったブルーグラス系のフォーク・グループであったが、ヒットしたその歌は、遭難死した彼に送られた歌であったようでした(以前、山の方で記事にしました)。

深夜放送に流れるニューミュージック/カレッジフォーク/グループサウンズ等々聴きましたが、此れこそ正に『懐かしのメロディー』になっています。聴けば思い出すけれど、フツと聴きたくなる様な曲でも無いのです。

ここで、またまた記録の無さで色々記憶がゴチャついてきた。其処で書くために、トピックスを年代別に、日本のポップス史・社会問題史・世界史・経済史等を私の歴史と共にメモ書きして、並べ直してみることにした。私が生まれた1947(昭和22)年前後は第一次ベビーブームと云われた、其の頃から凡そ20年間は第二次大戦後の東西冷戦を

背景にインドシナ戦争を初めとして朝鮮戦争等南北の紛争が続く中で、それでも日本だけは軍需産業の需要に乗り神武・岩戸・伊弉諾いざなびと好景気が続いた。その次の30年間は昭和が終わり平成に移ったが、第二次オイルショックからバブル崩壊とあまり良い時期でなく、別に社会の所為せいにしたいた訳では無いが、私も職場が変わった。職場が変わってから以後、特に残りの25年は私は血液の癌入院と10年後の再発治療での再入院、他に心筋梗塞によるカテーテル手術の入院を3回の4ヶ月を経験し、リーマンショックとコロナショックそして阪神淡路大震災と東日本大震災や北九州大震災そして台風19号/台風10号等陽性の南方的台風被害続発で今時洪水？と驚いた、碌ろくな時代で無かったし、私自身も気ぜわしく心に残る音楽も少ない。心に残る音楽とは、矢張り良い方向に向かう時代に排出されたり、心に残ったりするものなのであろうか。こう考えると、私の誕生は兎も角、第二次大戦後の20年間は日本にとってどん底から明るく蘇った20年であったようだ。本当は此処で

幾分か学生運動の悲劇を語ろうとしていたが、よくよく考えると浅間山荘事件(学生運動の終焉)の翌年は第一次オイルショックその前年にはニクソンショックその前年には70年安保と遡って続くわけで、1970年以降どんどん悪く下降線を辿り始めたのである。関係無いかも知れないが、因みにテレビ番組の『ザ ヒットパレード』も何と1970年に終了しているし、因みに、ビートルズも1970年4月10日には事実上解散しているのだ。また1965年から始まったベトナム戦争も1973年に、1969年にはホー・チン・ミンは既に亡くなっていたが、初めてアメリカが完敗した戦争も終わった。学生運動と微妙に合流しているかのごとき平連なるものが在った。アメリカ国内ではピート・シーガーやボブ・ディランやジョン・バエズのフォーク系の反戦歌があり、ジミー・ヘンドリクスやジョン・レノン等のロック系の反戦歌や楽曲もあった。日本の徴兵も無く戦争も知らない若者のフォーク・シンガーも反戦歌を歌って居た。因みに私だって戦争を知らないのだが、同い年に

『イムジン川』の加藤和彦さん(後に自殺…知らなかった)や私より一つ下には『さとうきび畑』を歌った森山良子さんも居たり、二つ下には『自衛隊に入ろう』の高田渡さんが居て、以下続々と『友よ!』の岡林信康/井上陽水/吉田拓郎等が登場し、J-folk と云うか J-pops へと流れていく。しかし、元全共闘の学生たちは反戦歌を歌わず、ノンポリとかノンセクト・ドジカル等と言われた無色の若き反戦大衆が現れ新宿辺りでフォーク集会などを実行し学生運動同様官憲に排除されたりして、反戦運動までもが学生運動と混同されパージされ舗道の敷石が投げられた、やがて1975年4月にサイゴンが陥落しベトナム戦争自体が終結した。そして此の頃から三無主義等と呼ばれるノンポリの若者の特性が現れ次の時代に移っていった。しらけ世代等とも呼ばれ、政治的に無関心な世代を排出し、1980年代には世相などにも関心が薄く、何においても熱くなりきれずに興が冷めた傍観者のように振る舞う世代の若者が増えた、こうした世相を指して三無主義(無気力・無関心・無

責任)、更に四無主義として無感動を追加することもあった。また、真面目な行いをするのが格好悪いと反発する思春期の若者にも三無主義と云う言葉は適用された。後述のジャックスの曲にあった、所謂『からっぽの世界』である。

私が前職に就くとき、校長から「あんたの学校は大学紛争の時、静かであつたらしいじゃない…」等と其処を評価されたが、実は私の大学は三多摩の拠点であつた。多摩と云えば古くから自由民権運動の中心でもあり、明治維新以降憲法制定(大日本帝国憲法)・国会(帝国議会)開設及び政党新設の頃までのこの時期には自由党(自民党の前進と考えるべきではない)の地盤でもあつた。これは、多摩地域に養蚕業を中心とした製造業者とそれを横浜港から輸出する流通業者が多く、軍事よりも産業振興を求める層だったからであるといわれている。軍事大増強を阻もうとする自由党の地盤を行政区画の変更という手段で解体したのではないかと云う論評もあつた…、まっそうであつたであろ

う。移管の際に反対運動の中心となったのは自由党の戦闘組織である三多摩壮士団であった。大阪事件以降の村野常^{つね}右衛門や森久保作蔵は東京市政において大正末頃まで大きな影響力を及ぼした。多摩は名望家で民権家で同時に多様な集団の受け皿となった人物を多く輩出しており、伝統・風土としては自由民権精神・民主精神は生きて居る。戦後からある時期まで長らく社会党の市長でもあった。そして、私にも其れはあつたし、大学改革を目指す学生が居ても不思議の無い風土があつた。がしかし、法学部開設に当たって招請された異色の当時学長になつた人物が東大法学部の重鎮・労働法の大家、学生が講堂を占拠し立てこもつたのに対し、躊躇なく夜陰に乘じ闇討ち状態で一気に官憲を入れ逆封鎖に出て学生は手も足も出ない状態で、一ツ橋大へ拠点を移したのであつた。因みに、官憲突入の夜には我が同行者の庭先にも学生が逃げ込んできたという…。そして、ジャーナルか何かに「無風」とか書かれたが、私としては決して無風ではなかつた。何故ならば、小学校以来

の級友が中核派と本学親衛隊とに分かれて争ったからでもある。それと、本人からは充分話を聞いたが高校卒業まで野球少年であって大学でも有馬頼義(直木賞作家)監督の伝統の野球部から大学生生活を始めた彼が何故革マル派にシフトしたのか…と云う想いは如何してもあったし…俺は如何する…?…と云う自問自答もあった。

しかし考え直してみると、1970年代は再生の時代だったかも知れない。例えば卑近な例として、1978年『ザ・ヒットパレード』に変わる『ザ・ベストテン』が始まった。1973年1ドル306円の固定相場制が変動相場制に変わり1ドル277円からスタート、ドルの力も弱まったといえるが、こうした状況に対する世界的新制度が生まれたと言える。確かに良くないことも続いてはいるが、修正しつつ低め安定で推移しているとは思える。

昔話は兎も角、音楽に戻って、ロックンロールからロックへの流れの中で、抜きこんでたのは「ビートルズ」でしょうか…。そして、以前から興味があった古典のバッハ及びバロック音楽。「ビートルズ」の旋律がバロック音楽の旋律と同様の技法を採っていると云われ興味を持って、再びチェンバロの音色も好きでブランデンブルク協奏曲/トッカータとフーガの各種やオルガン曲に立ち返り、好んで聞きました。パイプオルガンの音色は神々しさに満ちています。因みに、シュヴァイツァーのオルガン演奏のCDを持っていますが、しかし演奏としてはマリア・クレール・アランの演奏が最も好きでした。

さて一方、深夜放送では「ビートルズ」のみならず、スタン・ゲッツとアストラッド・ジルベルトのジャズ・ボサノバや進駐軍との兼ね合いで遣って来たスウィング・ジャズが盛んに流れていました。其処でそれ以来、スウィング・ジャズやモダン・ジャズもジャズ・ボサノヴァも聴きました。今はオノ・リサのボサノヴァが良いと聴いていま

すが、スウィング・ジャズではベニー・グッドマンやグレン・ミラー/デューク・エリントン/カウント・ペーシー/ルイ・アームストロング等もよく聴きました。モダンジャズも MJQ やソニー・ロリンズ/マイルス・デービス/ジョン・コルトレーン/ハービー・ハンコック/ハービーマン/ビル・エヴァンス/アート・ブレーキー/エラ・フィッツ・ジェラルド/ニーナ・シモン等も聴きながら眠った記憶もあります。特にハービーマンのフルートが意外性もあって好きだったのです。私、一時はフルートを遣ろうかと思った事もあり、家には娘のフルートの他に、友達の姉の音楽大学の練習用フルートを借りっぱなしの私の？フルートもありましたが、今や何処かへ行ってしまいました。また、鈴木重子や綾戸智恵や阿川泰子の様な和な女性ジャズシンガーの歌も聞きました。

もう一つ、民族音楽が挙げられます。トルコへ行って昔々江利チエミの歌で何故か流行はった『ウスクダラ』を現地語で聞き、更に『世界ふしぎ発見』で既にオンエアされ

たこともあった、オスマントルコ軍楽隊(メフテルハーネ)の『阿修羅のごとく(ジェッディン・デデン)』(何故か今や日本の応援バンドの演奏でもよく聞かれるようになり、甲子園の定番になっている)の生演奏を聴き、アナトリア地方の神秘主義詩人のメブラーナさんに纏^{まっ}わる旋回舞踏の踊りと音楽を聴き、クルアーン(=コーラン)の『祈りの歌(読経)』が流れるのを毎日耳にした結果、トルコに纏わる各種の楽曲・旋律を集めて聴きました。其れを切っ掛けに、ついでにと言っ^つては何ですが以前から興味があったアメイジング・グレイスやロッホローモンド等のバグパイプの曲集やアフリカン・ドラムズ集やマサイ族の楽曲集、友人に貰ったバリ島の音楽集、改めてハワイアン曲集、アメリカ黒人のブルースや霊歌、インドはシタールの調べ、沖縄民謡(島の唄)とか沖縄についての歌『島唄』『安里屋ユンタ』(嘗て渡航注射をしドルに両替して返還前の沖縄本島から西表島迄半ば冒険の旅をしたことがあった)等々かなり色々な地域や国や民族や楽器の音楽をかき集め、別に

行ったことがある訳でもない国の楽曲も、今でも懐かしく聞いています。因みに、叔父は慶応大で当時プロ級のハワイアンバンドをやっており、リタイア後はウクレレ教室等もやっていました。ハワイアンも日本では一頃かなり流行っていましたね。バッキー・白片とアロハ・ハワイアンズ等と云うグループやエセル中田と云う女性歌手が存在しました…。

異国音楽は別として、大学を卒業し前職に就くと、俄然音楽が遠退き今に至っています。但し、生徒らから聞き覚えた横浜銀蠅やキャロルやハウンド・ドッグの楽曲は耳に染みついているし、ディーブパープルの“スモーク・アンド・ウォーター”等も学園祭でよく耳にし馴染みました。また当時はガロの『学生街の喫茶店』も流行った時期があったな、と思い出すが私の青春と言うより彼らの青春だったのに巻き込まれました…。尚、私久良岐乳児院に再就職して若き職員から聞き知ったのは、PUFFYでした。色々買いましたよ。

そしてもう一つ、上記 PUFFY もそうかも知れませんが、
わたくし私としたことが意外と新しく変わっていると思われる様な音楽たとえばかまやつひろしや椎名林檎さんの歌等(お読みになって解からない方では話にならないので少し知名度のある所を…)に引き寄せられる傾向もありました。例えば前述のジャックスの『からっぽの世界』。初めて所謂深夜放送で聞いた時から気に入って面白い曲、面白い詞(面白いとは…興味をそそられる・興味深いとの意味があります)だと思っていました。このバンドはその後1969年には既に解散しているのですが、その後再評価され改めて流行った…、流行る頃には私の音楽熱と云うか深夜放送熱そのものが冷めていました。何れにせよ、音楽は青春の思い出と共に在るような気もするのです。深夜放送を聴きながら歌詞をしっかりと聴き取り、書き取った記憶があります。

無論、最近何かの切っ掛けで、耳に達し改めて購入したオノ・リサさんのボサノヴァの様なものは幾つもあるので

すが、全く新しいジャンルや曲は少ないとおもいます。今は流行りと云うか、所謂「励ましソング」「元気が出る音楽」「前向きになれる音楽」系は幾つか知って感じ好きになっていますし、遣るぞと思える曲は好きです。葉加瀬太郎の『情熱大陸』、『花は咲く』、平原綾香の『ジュピター』、Foorinの『パプリカ』など新しい方でしょうか。忘れていましたが、チョッと古くは『一世風靡・セピア』ご存知ですか？随分と元気が出ると言うより、力が入る楽曲であったと思いますが、当然激しいパフォーマンスが売りでしたが、私は踊れません、無理です、しかし元気の出るカッコイイ、グループであり和風の楽曲でありロックだったと思いき好きでした。メンバーの多くが個性派俳優に育ちましたよね。また、前述のオスマントルコ帝国軍楽隊 メフテルハーネの『ジェットイン・デデン』も随分と元気が出そうな鼓舞される楽曲です…ま、当然行進曲の様な、軍楽ですから…。

ついでにもう一言。因みに、お経や声明そして御詠歌のCDもあり流しています。宗派的には真言宗のもの中心です。般若心経/理趣経/観音経/檀信徒勤行集/高野山金剛流御詠歌の他に旧節西国三十三所御詠歌等。所謂音楽ではありませんが旋律がありますし落ち着きます。そしてインターネット等で見られる真言宗豊山派東谷寺の法楽太鼓や真言宗豊山派各寺の豊山太鼓、好きでよく聴いています。またインターネットの読経/お声明/読経太鼓などCDラジカセの様なものさえあれば、好きな時に身近に聞けます。

さて、最近では、手持ちのCDを久良岐に持ち込んで、寝る前には各種のジャンルの音楽を聴きつつ眠りに落ちているのですが、おっしゃる通り要するに聞いていないのかも知れませんが、睡眠導入剤代わりでしょうか。それでも4-5時間ほど後には、目覚まし時計で起こされても、目覚めはけして悪くはないのです。

こうして書いてきてフッと気が付いたのは、今私の家にはオーディオ機器が引っ越しの時置いてきてしまったままで無くなってしまいました。仕事を辞めたら改めて買いますか…、久々に聴きたい楽曲は沢山ありますから…。

読み返して気が付きましたが、反戦の処でチョコッと書いただけでしたが、高校から大学時代か？深夜放送時代には、フォークソングにも傾倒した時期がありました。アメリカなブラザースフォー/キングストントリオ/P・P・M/ジョンバエズ/ボブディラン/ピートシーガー等が抜けていました。

The Planets: Jupiter, The Bringer of Jollity

Arranged for Piano by Kilian Massler

By Gustav Theoreore Holst

$\text{♩} = 130$

(Violins)

mf

5

10 *p* *mf*

15 *ff* *f*

23

